

有機飼料の地域内自給をめざす……

共栄ファーム・ 畜産用飼料米栽培試験

Message



茨城県七会村、オーガニックチキンの鶏舎をバックに中村さん（右）と農場長の丹羽さん。カタカナのネーミングだが、日本的でどか、心が洗われるような山里に行んでいる。

■20俵を目標に

「生産者の自己満足だけで理想を追いかけ、結果品物が高いものになっては意味がない」。課題はコスト。そこで鶏の要求や嗜好に合って、国内で安定的に、かつ低コストで生産できるエサとして考えたのが“米”。消費者の米離れが進む中、減反で耕作が放棄された田んぼを生かすことができないか？

エサ用として田んぼが生き続けられ、いつでも食用に転換できるから米不足にも対応できる。良い食味が求められる日本の米も、ひと頃は増産の技術で優秀な時代があった。収量が20俵まで見込める品種があれば光が見えてくる。米はどこでも穫れるから、成功すれば日本のほとんどの土地で飼料自給の可能性が現実味を帯びてくる……。

■失敗なくして成功なし

中村さんの構想は7年前、それから農協や研究機関から情報収集し、実際の種を入手して休耕田での試験栽培を開始したのが昨年。昨年の試験は10.5俵と、残念ながら収量で失敗だったとのことですが、この米は給与試験を行ない嗜好性や肉としての生産性を調査しています。

2年目の試験となる今年の栽培は

地元の農協にも協力いただいて65反。農協さんには特別栽培で、自社は有機栽培で育ててきました。お伺いした9月9日、作付けられた多収品種のミツヒカリとタカナリはまだ登熟が始まったばかり。黄金色に収穫を待つ周囲の品種を太さと高さで圧する、堂々とした姿。超晩生で、収穫は10月も末まではかかるだろうとのことで、結果が楽しみです。（事務局・竹内）



9月初旬でまだ青々と天に伸びる長穂（ちょうく）。160cmは超えていた！

復活！

らでいっしゅ会員の 生息を探れ サービスセンター 最前線！

配送スタッフと同様らでいっしゅの「顔」として、らでいっしゅ会員の喜怒哀楽すべてを受け止める会員サービスセンター。これまで5回にわたりセンターの最前線の模様をお伝えし、しばしお休みをしておりましたが復活の兆しが見えてきました。まずは、らでいっしゅぼーやの会員さんから寄せられた声からの先行復活です。

喜びの声(^o^) お怒りの声(T_T)

北海道センター「元気市」編

●毎回、新しい飲食ブースがあったり、買えなかった物が買えたり、年に一度の楽しみで家族全員、今か今かと待っています。“生産者さんを当てよう！（※）”で一箇所分ならず、「エイッ！ここだ！」とピンをさしたら大当たり！ ラッキーで

した。景品でいただいた泉吉広さんのおいしい野菜、ありがとうございました。（札幌市豊平区 山本さん）

●授乳室があって本当に助かりました。外だと煙モクモクで寝てくれなかったのですが、静かなところだったし、すぐ寝てくれ助かりました。でもちょっとさみしい場所でしたけど……。あるだけ幸せでした。（札幌市北区 S.Aさん）

●今回はフリーマーケット出店ということで参加しました。いつもとは違い、一日中ゆっくり会場にいて、お友達と会っておしゃべりやお買物・お食事と、いろいろと楽しめました。お給料前(?)ということもあったのか、お客さんのお財布のヒモがちょっぴり固かったような気がしました。でも人と会って、人と話せて楽しかったです。（岩見沢市 N.Yさん）

●初めて参加しました。子どもの運動会と重なってしまって、午後からしか行けなかったのが残念でしたが、本当に楽し

かったです。そこで、勝手に元気市の感想を書いてみました。おこめ安心食品さん……ピザがおいしかったデス。安心素材で嬉しかった♪ 藤井豆腐店さん……ゆば最高!! いつもと違う“寄せ豆腐”もおいしかった！ らでいっしゅ販売ブース……ぶどうがおいしかった。あれはすでに芸術品の域。うちのばあちゃんが「きれいだ、きれいだ」とそんなに誰食べるの? というくらい買っていました！ 飲食ブース店…お祭りの雰囲気って、楽しいけれど食べるのは心配……。でも今回は、本当に安心して楽しめました。こんな露店、他には絶対にナイ!! O.M.Hさん……いつも“ぱれっと”で食べていますが、今回もやっぱりよかった☆ らでいっしゅの加工品ブース……遅く行ったからでしょうか？ほとんどなくて残念……。また来年も楽しみにしています。（札幌市南区 小池さん）

（週刊）お話しドレッシング
北海道静電発信 vol.34より）

※：Radixの会にて出店したブース。喜んでいただけて事務局も嬉しいです。